

発刊にあたって

日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会

理事長 永戸 祐三

日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会は、一九七九年に前身の中高年雇用・福祉事業団全国協議会が設立されて以来、二〇一四年をもって三五周年を迎えることができました。それから三年、ここに本書「みんなで歩んだよい仕事・協同労働への道、そしてその先へ」ワーカーズコープ三五年の軌跡」を発刊する運びとなりました。

私たちワーカーズコープを支え、励まし、惜しめないご協力をいただいている多くの関係者のみなさまにあらためて感謝を申し上げます。また三五年以上の長きにわたり共に歩んできた組合員、今この瞬間も「よい仕事」と「協同労働」の実践に奮闘し続けている仲間たちや、その家族、そして地域の人々に心から敬意を表します。

組合員一人ひとりの絶え間ない努力により、日本のワーカーズコープ運動は、三五〇億円近くの事業高と約六万五〇〇〇人の組合員を擁するまでに成長してきました。そのうち、ワーカーズコープ運動が

設立を提唱し、ともに歩んできた高齢者協同組合運動も、一〇〇億円近くの事業高と五万人を超える組合員数に到達しつつあります。かつての緑化事業などから病院清掃や物流事業に挑戦し、介護や子育て事業の発展を経て、農林業やクリーン・エネルギー事業の開始、そして生活困窮者・障がい者・若者などを対象とする自立就労支援事業の全面的な展開に至るまで、ワーカーズコープ運動の発展の軌跡は本書に詳しく記録されています。

この発展の軌跡を言わば「前史」として、私は今、日本のワーカーズコープ運動が全面的な発展への移行期を迎えつつあると実感しています。

今日の世界には、「今だけ、金だけ、自分だけ」とも評される強欲な資本主義(新自由主義)がかつてないほどにはびこり、数多くの人々が貧困のまま放置され、分断や孤立、社会的排除にあえいでいます。とりわけ地方では、人々が支え合い、助け合いながら生活してきた地域コミュニティがいちじるし

く衰退し、「社会」そのものが成り立たなくなりつつある。こうした社会的危機が深まっているからこそ、ワーカーズコープに対する社会的期待がかつてないほどに高まっていると感じています。

ワーカーズコープは、事業的基盤となる病院清掃・物流・介護・子育て事業などから、「こども食堂」やフードバンクなど非営利の「社会連帯」活動、さらに持続可能な未来社会を切り拓くための新しい農林業やクリーン・エネルギー事業に至るまで、多様な運動・事業を展開しています。その意味では、ワーカーズコープそれ自体が総体として、多様性に満ちた「社会」の縮図と言いうことができるでしょう。したがって、ワーカーズコープは人々の「協同」関係、支え合いや助け合いを回復させることを通じて、とりわけ「協同労働」を基盤として、多様性に満ちた「社会」を創り出すことができると思います。ワーカーズコープの可能性は、あらゆる人々が「今、ともに、ここに生きる」ことを実感できる組織・運

動になりうるということ。つまり、自らをもって多様性に満ちた「社会」となしうることにあると思います。

こんにち、数多くの自治体や地域の人々からワーカーズコープに対する大きな期待を伝えられておりますが、これは散り散りになってしまった人々の「協同」関係をワーカーズコープが紡ぎ直すことへの期待であり、崩壊の危機に瀕する「社会」を創り直す営みの一翼を担うことへの期待と受けとめています。長年にわたる念願だった「協同労働の協同組合法」が制定される可能性も高まりつつある現在、人々の生活と地域の課題に正面から取り組み、「社会」を創り直すという期待に全身全霊をもって応えていくことにより、私たちの運動・事業は、これまでの「前史」を越えて本格的かつ全面的な発展期を迎えることでしょうか。

私自身、一九七七年に全日本自由労働組合に加入して以来、事業団運動からワーカーズコープ運動へと、この道をひたすらに走り続けて四〇年の歳月が流れました。振り返れば、長いようであつという間の四〇年でしたが、初めて「レイドロー報告」を読

んだ時の衝撃、すなわちワーカーズコープによって「労働が資本を用いる」ことを予言した言葉を目にしたときの衝撃は、今も忘れることができません。

しかし、実際の運動の現場では、何の知識もなかった清掃や介護について必死に勉強し、目の前の事業を少しでも発展させるために走り回り、日本で前例のないワーカーズコープ運動を一步でも前進させるために、悪戦苦闘を続けた四〇年間だったと感じます。そうした日々を思い起こすとき、常に浮かんでくるのは数えきれないほどの仲間たちの顔、喜怒哀楽に満ちて実に魅力的な老若男女の組合員たちの顔に他なりません。

私自身は四〇年を節目として、本年、ワーカーズコープ運動の一線から退くことにいたしました。これからも、ワーカーズコープ運動を支える「社会連帯」活動には命の続く限りこの身を挺する覚悟ですが、ワーカーズコープ運動はより若い世代のリーダーたちに委ねたいと思います。若い世代のリーダーたちには、常に「現場主義」に徹し、実践的であり続けてほしい。ワーカーズコープ運動の本質も醍醐味も、現場での実践を抜きにしてはありえないのだ

から。

本書が三八周年といういささか中途半端な区切りをもって編纂された理由は、発足当時から組合員が続々と引退の時期を迎えている現在、来るべき五〇周年を見据えて、散逸しがちな記録や個人の記事を一旦整理し、まとめておく必要があると考えたからです。五〇周年を迎える頃には、ワーカーズコープ運動は本格的かつ全面的な発展期を迎えているでしょう。この未来のワーカーズコープ運動を担う若い世代の組合員には、今日までワーカーズコープ運動を支えてきた先達たちの苦闘の数々、その実践や想いが詰まった本書をぜひ手に取ってほしい。本書が若い世代の組合員にとって、現場での実践を一步でも進めるために少しでも役に立つならば、これ以上の喜びはありません。

ワーカーズコープ運動をご支援下さっている数多くの関係者のみなさまに感謝の印として、これまでもに歩み続けてきた組合員の仲間たちには心からの親愛の意を込めて、そして今後のワーカーズコープ運動を担う若い世代の組合員には大いなる期待とともに、本書を贈ります。